

「栽培植物と農耕の起源」合評会

('66, II, 14)

出席者 梅棹、上山、飯沼、石井、松原、佐々木、
中尾、藤岡、和崎、米山、谷、石毛

I アッサム — アラカン・フィルター

- Ss. アッサムに東でシコクビエのウエイトがすくなくなる。
アッサム—アラカンフィルターの場合と考えらうか？
- Nk. インドではミレットが多く作られ、ミレット栽培が完成した形になっても、~~山を越えるとき~~、アッサム—アラカン
を越えるとき、ここがフィルターとして、一度さえかっ
ている。シコクビエは中国のどの省にもあるが、ウエイト
としては問題にならぬ。
- In. アッサムを境にしても、夏雨地帯であることに変わりはない。
熱帯と温帯のちがいのほか、何か重要な理由は、
ないか？
- Um. アッサムは元来 Hill tribes の場所。モンゴロイドが住んで
いた。人種の差異が大きく効いている。
- Yn. アラカンも境として culture がかわる。そこで、フィルター
というより、ボーダーだ。
- Nk, Ss. フィルターの方がよらしい。
- Nk. 牛の分布でもアッサム—アラカンはむずかしいところだ。

II アルプス・フィルター

- Nk. 照葉樹林文化を述べた以上、ヨーロッパ内でもゾーンを考
えねばならぬ。アルプスを境に、sub-division はできる。
- In. トマト・ナス・オクラは、イタリアにまで入っている。
アルプス・ウォールも考えたらよい。

III ロロ・センター

- Ss. ロロ・センターのソバヒカイズをもっと強調せねばならぬ。
- Nk. 東ゲータンには、モクイネが作られている。カイヌで
ミソ・ソフトウを作る。

- Ss. シェルパはツケモノを作る。ミソ、ツケモノをびー連のものを作る必要がある。
- Ue. ロロ・センターとフィルター問題は重なっていく。
- Ss., Nk. ここは重要な場所。一度行かんとかアカン。

IV. ヨーロッパにおける作物の受け入れ態度

- Nk. ヨーロッパは新大陸の夏作物をうまく受け入れるが、インド、アフリカのもは定着しない。しかしヨーロッパでインド、アフリカのもが出来なわけはない。新大陸の新奇なものをとり入れ、インド、アフリカ産はケイベツする。サトイモ、芋はジャガイモの代用品というように記されている。ゴマのようなものも、どうして拒否するのか。
- In. オリーフのように、もっと多脂性のものがあったから。
- Nk. 黒人を拒否するように、インド、アフリカ産のものは拒否される。
- In. 新大陸のジャガイモなどは、ヨーロッパに適合する。気候的要素が強いのではないか。

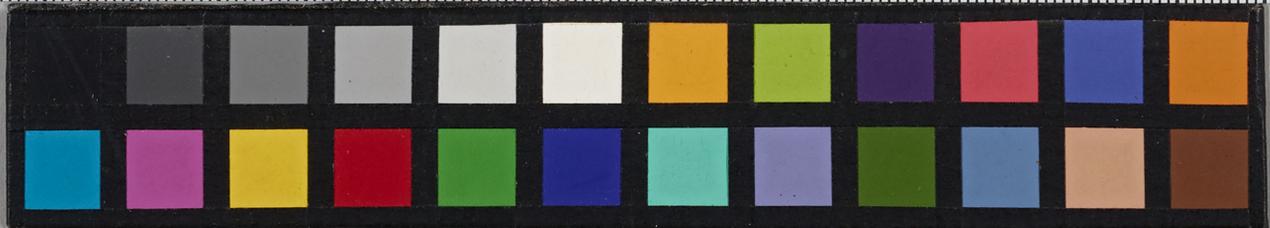
V. 条播・散播・混播

- Ss. サバンの農耕文化で条播が original でなく、散播から始まったのではないか。
- Nk. そのとおり。
- Ss. 混栽では、inter-croppingが行われる。雑穀は、混播と分類したらどうか。
- Nk. ある段階では、混播がサバンナ雑穀農業で大変利用されていくだろう。
- In. 混播は、異常気候などの危険防止の役をする。
- Ss. 70%ミックスな段階には、混播だったろう。
- Nk. 飼料作物には、現在でも混播が行われている。
- Ss. 77%の利用など、技術的転換が混播より単一化を促す。

根

VI. 根栽の食べ方

- Mt. 日本の原始文化はサトイモ、マムシグサの根栽で成り立っていたと考えるか？
- Nk. 日本に昔からサトイモがあつたとは考えられぬ。



- 野生植物の gathering を水サラシで処理していいのだろう。
 Mt. 長野県で石皿上にテンパン質のパン状のものがある状態
 態で発見されている。
 Mt, Ig. 加熱して毒を消すためには、土器が必要だ。 水晒の
 方が古いとは考えられぬか？ サゴヤシの水晒でも、木鉢
 があるなら水晒が簡単にできる。

Ⅶ. 雑穀

- In. 雑穀農業は反当収量増大が早く壁につきあたるというが、
 社会状態や栽培地域が変わったら増大可能ではないか？
 Nk. 除草を入念にするから、経営面積上の壁につきあたる。
 Ue. 雑穀とモンsoon地帯は一致するか？
 Ss. アフリカに關しては場合が悪い。アジアでは雑穀とモン
 soon地帯が一致すると言える。

Ⅷ. 起源地問題

- Ig. ヤンシャオ文化よりアアが出土するので、インドよりも古
 くから中国に現われている。アアをインド起源と考えるのは
 ならぬ理由は？
 Nk. 中国でキビかともなっていたら、アア、キビかともなつて
 インドから中国へ伝来したと考えられよう。
 トウモロコシの起源地帯については、はっきり書かなんだ。
 アンデス原産としたらジャガイモとどうらか古いかな考えね
 ばならぬ。
 In. イネを華南起源とする安藤説はどうか？
 Nk. イネだけを独立させて考えれば安藤説でもよいだろうが、
 complex として考えたら、イネにもなつて作物化した植
 物の華南、東南アジアにもとめられぬ。
 Ss. タロイモ起源地帯をビルマ、アアサムにした理由は？
 ナガビルでサトイモはあまり重要でない。
 Nk. サトイモに關しては、根拠が弱い。あまり研究がなされ
 ていないから。アアサムのナアバル村で私が見た品種が
 基礎となる、と考えたから、ビルマ、アアサム起源説もとなる。

現在、経済的に

「栽培植物と農耕の起源」合評会

(66・II・28)

出席者：今西, 梅棹, 中尾, 飯沼
天野, 上山, 岩田, 佐々木, 藤岡, 河合
谷, 桑原, 和崎, 松原, 石毛

発表者：中尾

I - 一次果物と二次果物

食物 Complex

- N 一番古い段階は、野生果物の採集にはじまる。
Iw 果物の南発とデザートなどを含む乾燥地帯との
関係は？
N デートは一次果物。
Iw デートは準主食になっている。
N 地中海周辺では乾燥保存用果物が多くなる。
果物をハラの足しに用いるためには、貯蔵が
問題になってくる。
Kw ハラの足しになるためには、消化の面から考
えれば、一時間以上ハラの中にもたねばなら
ない。アーンズなどが一時間以上ハラの中にた
まっているだろうか？
Im, T レッチャウ食う。
T ナシ、ブドウが地中海より北へ入るのは時期が
おくれる。その以前は、アルプスの北側では
ナッツを食っていた。中世には、ヨーロッパで
クリの消費量が相当多い。
Iin ローマの軍隊は、ホニイチゲフ、ホシブドウを重要
な携行食糧としていた。これらは、すでに改良
が相当加えられた果物であらう。一次果物
が改良されなかったとはいえず。
Im, N 二次果物も、すべて一次の段階をへっていると考
えている。
N, Um 二次果物は、まさしく日本でいうクダモノに相
当する。日本でクダモノといった場合の概念は
明らかに二次のみを示す。
N 一次・二次を food fruit と desert fruit と呼んだ
らうか。

- Um 栄養食物と感覚食物とに分類するのがよい。例えば着物と同様なところがあるのではないか。動物段階と人間段階では食物の意味が異なる。食物を栄養補給物以外の面で考えたら、文化の問題に帰する。デザートというのは西洋的なパターン。日本では食物を見て楽しむ、カオリを楽しむ面が大きい。
- N 日本では果物を生で食べるが、ヨーロッパでは乾燥して食べる。葉菜を生で食べるのは、食物の食べ方の最高段階といえる。
- Um 生牛乳、サシミも同様、=流品は加工して食べる。
- Im 生の果物を消費するようにな、たのは、つい最近のことだ。
- Iin ハラの足しは穀物ですませ、果物は二次用途になる。

II 小麦と大麦

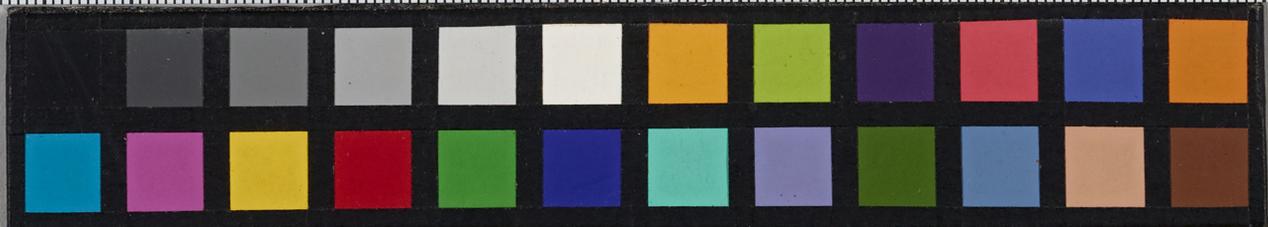
- Ig 彩陶、青銅、小麦、羊などは西側から中国に入ってきたものと考えられる。
- Am, N 北シナでは大麦が欠ける。裸大麦は陝西、山西。
- Am 周代は安徽省で小麦が大量に出ているが、大麦はない。中国で大麦と小麦が区別されるのは前漢代になってからである。
- N インド古典には、小麦の話は見えない。北シナでは、小麦が一番古く、大麦がそれについてつくられ、また小麦がとって変わ、た。インドでも同様のことが起ったのではないか。インダス文明より小麦が出土している。
- Iin 技術的段階によって、小麦と大麦の転換がおこるのではないだろうか。
- Am 中口の水田スキは、北方的畑作農業のスキが移入されたものと考えられぬか。
- N 中口の稲作のスキは、麦作と必ずびついたスキが南下したものである。

III Dry Farming

- Iin dry farming は文献的に周代までさかのぼる。周代に除草具がとどくと出てくるのがその傍証。dry farming とは、天水のみによつて、穀物農耕を集約的に行うものと解釈する。
- Ig その定義にしたがえば、dry farming は中国の新石器時代開始期より行なわれていたことになる。
- Am dry farming とは意識的に土壌水分を保持するところから始まる。殷周時代では、水辺に農業を営む。カニカイは春秋戦国時代に出てくる。dry farming は秦漢帝国以後。

IV イネ作の系譜

- N イネのインド起源説は、形式論理をおしすすめた結果できた。イネだけの中口でつくられたとするのはおかしい。イネとワンセットで複合するもつたが、中国にはない。
- N 平地水田はインドででき、アラカン・フィルターでオカホができる。
- Am 雲南でのイネの高度分布は、
1,750 m 以下 インディカ
1,750 m ~ 2000 m .. インディカ・ジャポニカ
2,000 m 以上 ジャポニカ
- N インディカ・ジャポニカという分類は具合がわるい。左トル反応黒を アウス 群、反応なしを アマン 群とする分類が、いまのところ一番よい。
- Iw 雑穀型、陸稲卓越型には前後関係はないか。雑穀型のなかのイネが江南で平地に進出して稲作がおこる。
- N 雑穀型は照葉樹林文化に、陸稲卓越型は根栽文化に基盤をおく。
- Ue 山積み、スワンフ・フォレストの稲作は農耕的にも、質的にも、その担い手が異なる。こいたのか？
- Iw, Um スワンフ・フォレストの開拓は新しい。19世紀に平地が先づ開拓された。



- Im 水田と山榎みの担い手が民族的に異なる。
 Iw モン族は山手から下りてきて水田稲作を始めた。
 モン族 — アゼを高くして、池をつくる
 ように水田をつくる。
 タイ族 — 川からのカンガイ。

V シルクロード

- Am 中国でスリウエと小麦が必ずひいて、シルクロード
 経路で入ってくる。
 N シルクロードには、植物のデータが全然ない。
 In, Um シベリア経路よりも、シルクロード経路を考える
 べきではないか。
 N ライ麦はシベリア経路のほうが都合よい。
 Im シルクロード探検隊を出さなあかん。
 Am ショク・キビはチベットまわり、シベリアまわりは
 わかるなり。アワ・キビは中国原産と考えたか。
 N アワ・キビは中国原産ではない。
 Am 中国でモチ・キビは大規模に栽培されているが、
 モチ・アワはそうではない。

VI 農業革命

- N 第一次農業革命 — 農民層が形成される。
 第二次 — それを面にひろげる。
 根拠文化では農民層は形成されない。エジプト、
 ユーフラテスの場合、氾濫原がなかったため、第一
 次でも例外的に大規模であった。
 インド、シナ等の古い時代の人口問題をはきりさせる
 必要がある。
 Um 第一、二、三、四次農業革命というのは、段階的なもの
 か、質的なものか？
 N これから検討すべき問題。
 Um) 農業革命は封建制度などと結びつく大問題だ。
 Ue)
 T

VII Selection

Im 栽培植物がどうして出来たか? Selectionで説明
がつくかどうかは疑問。植物自身が勝手に変化
したともいえるのではないか。

N フキは三倍体。野生状態では三倍体のなかに、
ほっほっ三倍体がある。Selectionが働いている
からではないか。

Im 栽培植物の起源には、人間の側からの働きかけ
と植物の側からの働きかけの相まった力が、働
いている。

Nk, Um 収量の多いものが、自然選択の結果残っていく。
ある条件のもとでは、自動的に収量はふえてゆく。
現在では、ほとんど極限状態になっている。

Um Selectionとしてとらえるわけではなく、集団遺
伝学としてとらえることを、はきりさせる必要
がある。

N サバシバ農耕文化の雑草には、Selection Pressure
を強くかけるため、雑草が強くなる傾向がある。
休閑とする農法では、雑草が強くならない。